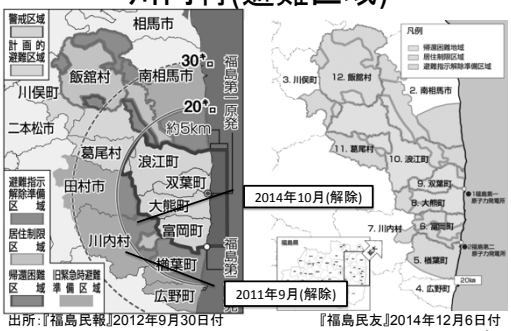
2016年3月20日
「原発と人権　全国研究・交流集会inふくしま」
第1分科会　原発事故の救済と差止め
第1分散会　福島原発事故被害の救済

原発事故によるコミュニティの被害
ー双葉郡川内村の伝統芸能継承をめぐってー

○ 藤原遥（一橋大学大学院経済学研究科）
片岡直樹（東京経済大学）
除本理史（大阪市立大学）
日本環境会議　ふくしま地域・生活再建研究会

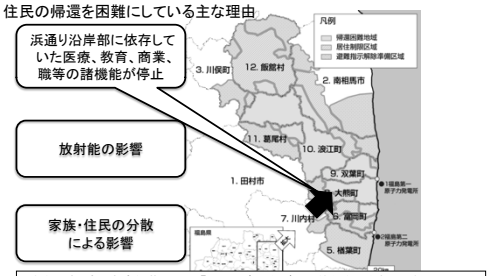
川内村(避難区域)



出所：『福島民報』2012年9月30日付　『福島民友』2014年12月6日付

研究背景①

住民の帰還を困難にしている主な理由



・除本理史・渡辺淑彦編著(2015)『原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか―福島事故から「人間の復興」、地域再生へ』ミネルヴァ書房。
・藤原遥(2015)「原発事故被災自治体の帰還政策に求められること―双葉郡川内村の実情調査から」『環境経済・政策研究』8(2), 67-70, 環境経済・政策学会。

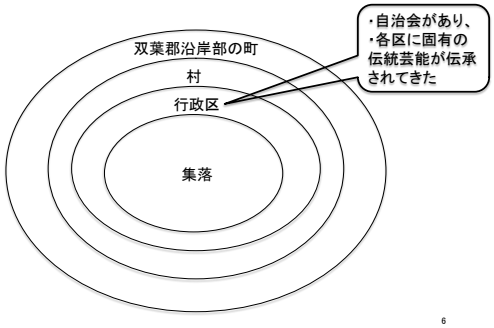
研究背景②

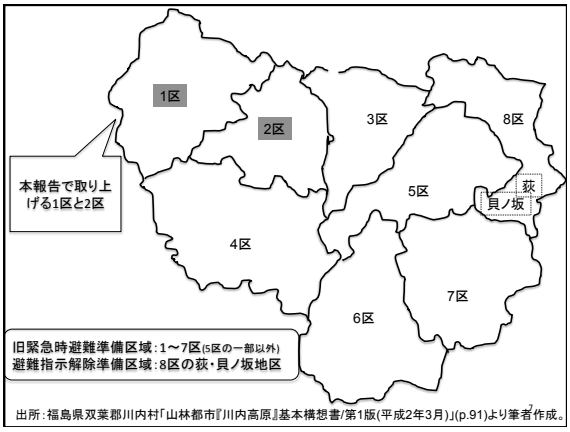
生活圏を依存していた浜通り沿岸部の諸機能が停止、放射能の影響、家族・住民の分散による影響
⇒地域社会がすでに変質・変容している
⇒「ふるさとの変質・変容」
⇒地域コミュニティの変容について調査。

研究方法

期間：2014年6月～2016年1月
対象：川内村の行政区長、寺社関係者、伝統芸能の指導者など
方法：聞き取り調査を実施。資料収集も行った。

川内村のコミュニティ



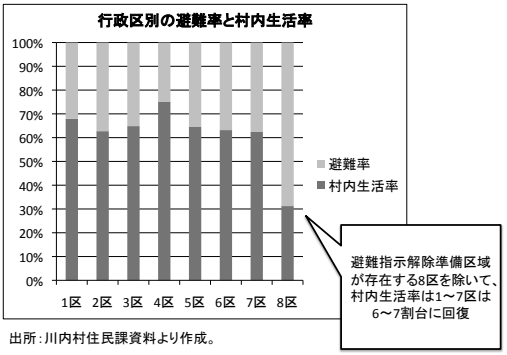


出所：福島県双葉郡川内村「山林都市『川内高原』基本構想書/第1版(平成2年3月)」(p.91)より筆者作成。

7

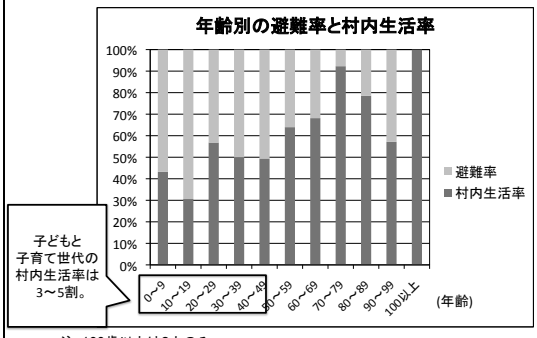
川内村における住民の帰還状況

8



出所：川内村住民課資料より作成。

9



注：100歳以上は2人のみ

出所：川内村住民課資料より作成。

10

出所：ふくしま教育情報データベースhttp://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/index.html

11

諏訪神社の例大祭

	例大祭開催日	行政区	伝統芸能
高田島	春：4月29日 秋：9月第3日曜日	1区	高田島神楽 高田島獅子
上川内	春：4月29日 秋：9月第2日曜か土曜	2区 3区 4区	西郷獅子 東郷神楽 浦安の舞
下川内	春：5月3日 秋：9月第2日曜	5区 6区 7区	町獅子 西山獅子 浦安の舞

出所：筆者作成

12

三匹獅子舞の踊り手

- 小学1～3年生のなかから3人選出
- 1年間の練習を経て翌年の春の例大祭で初披露を迎える
- 中学2･3年生で引退
- 三匹獅子舞では、原則として3人の踊り手の構成を引退まで変更することがない（年齢が上がるにつれて披露する種目を増やし、長年の練習･披露を重ねて引退時までに一人前の踊り手に育てるため)
- 三匹獅子舞は「継承のシンボル」とされ、その踊り手は後世に伝承する「つなぎ役」になることが求められてきた

13

三匹獅子舞の踊り手選び

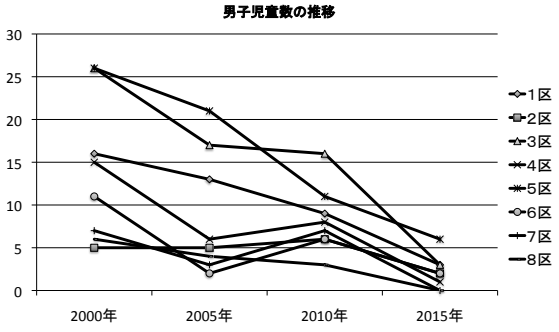
- メンバーの交代は引退を迎える年に一度に行われ、それを「立替え」という
- 担い手選びには子ども、区民、男子、低学年の同級生で揃える、男子のなかでもとくに長男という5つの条件が設けられた

⇒少子化が進むにつれて、人選の条件を緩和する必要が出てきた

一番始めに外されたのは長男という条件

14

原発事故前後の男子児童数の推移



出所：川内村教育委員会資料より作成。

2015年度(原発事故後)における各行政区の児童数

	男子児童	女子児童
1区	3年生(1)、4年生(1)、6年生(1)	1年生(1)、4年生(2)、6年生(1)
2区	3年生(1)、5年生(1)	―

注：( )内は人数。
出所：川内村教育委員会資料より作成。

子ども、区民、男子、低学年の同級生で揃えるという4つの条件でそろえることは困難。

16

1区の踊り手の変遷

初披露の年	行政区	初披露時の学年	性別
1986	1区(3)	小学2年生(3)	男子(3)
1994	1区(3)	小学2年生(3)	男子(3)
2002	1区(3)	小学2年生(3)	男子(3)
2009	1区(3)	小学3年生(3)	男子(2)、女子(1)
2015	1区(3)	小学4年生(3)	男子(1)、女子(2)

注：( )内は人数。
出所：聞き取り調査、および川内第三小学校閉校記念事業実行委員会･記念誌編纂委員会(2004)をもとに作成。

1区では、区民･低学年の同級生で揃えることを重視してきた。
2015年(原発事故後)は低学年の男子児童を同級生で揃えることができないため、女子児童2人が加わっている。

17

2区の踊り子の変遷

初披露の年	行政区	性別	初披露時の学年
1984	2区(3)	男子(3)	小学1年生(3)
1993	2区(3)	男子(3)	小学3年生(1) 小学4年生(2)
1999	2区(3)	男子(3)	小学4年生(1) 小学5年生(1) 小学6年生(1)
2003	2区(3)	男子(3)	小学2年生(2) 小学3年生(1)
2014	2区(2)、4区(1)	男子(3)	小学2年生(1) 小学4年生(2)

注：( )内は人数。
出所：聞き取り調査、西郷三匹獅子舞保存会の所蔵資料、
川内第一小学校閉校記念事業実行委員会･記念誌編纂委員会(2004)をもとに作成。

2区では区民･男子で揃えることを重視してきた。
原発事故前には、低学年同級生の男子児童が3人揃い、2011年の春の例大祭で初披露を迎えようとしていた。しかし、原発事故後3人とも避難を余儀なくされている。
2014年には男子児童が不足しているため、別の区から「借り」て3人揃えた。

18

三匹獅子舞を継承する意義

諏訪神社の例大祭の「場」
「地域の伝統を継承する場」
「世代を越えたコミュニケーションの場」
⇒三匹獅子舞が奉納される例大祭を通じて、コミュニティ成員の間に「連帯感」「共同性」が生まれていた

19

コミュニティの被害

- 伝統芸能継承の困難は、震災前のコミュニティがかなり変容していることの現れ
- 伝統芸能が次世代に継承されず途絶えてしまえば、コミュニティのなかで「連帯感」「共同性」を養う力は衰えてしまう
- 三匹獅子舞が奉納されなくなれば、2つの意味をもつ「場」が失われ、コミュニティは大きな打撃を受ける

20